

令和 8 年 三 重 県 議 会 定 例 会

医療保健子ども福祉病院常任委員会

説 明 資 料

【 所 管 事 項 説 明 】

- 1 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和 7 年度分）

頁

1

令和 8 年 1 0 月 7 日
病 院 事 業 庁

1 指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和7年度分）

＜県の評価等＞

施設所管部名： 病院事業庁

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立志摩病院（志摩市阿児町鵜方1257）
指定管理者の名称等	公益社団法人地域医療振興協会 理事長 藤来靖士（東京都千代田区平河町 2-6-3）
指定の期間	令和4年4月1日～令和14年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	・診療等に関する業務 ・利用に係る料金の收受等に関する業務 ・手数料の徴収に関する業務 ・施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務 ・その他志摩病院の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R7	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B			・一般病床、地域包括ケア病床及び精神病床を運用し、地域の医療機関からの紹介患者の積極的な受入れ等、地域の医療ニーズへの的確な対応を行った。 ・救急医療において、内科系救急における24時間365日の受入体制を維持し、救急受入要請数に占める受入件数の割合は83.9%と高い実績であった。
2 施設の利用状況	B	B			・地域の人口減少等の影響もあり、入院患者数、外来患者数及び救急患者数ともに前年度より減少したが、入院収益での単価は増加するなど効率的な病院運営に努めた。 ・地域での医療人材の確保が困難な状況の中、医師や看護師確保並びに人材育成に取り組み、地域事情を踏まえた診療機能の維持・充実に努めた。
3 成果目標及びその実績	C	C			・全ての指標において成果目標を下回り、達成できなかった。 ・患者支援センターによる効率的な病床運営の取組や心臓カテーテル検査・手術などの取組により診療単価が上昇したものの、患者数の減少による入院収益及び外来収益の減少に加え、人件費や物価の高騰等により費用が増加したため、経常収支比率は、前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。

※「評価の項目」の県の評価： 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「」（空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	・地域の人口減少等による患者数の減少傾向に加え、人件費や物価の高騰等により費用が増加したこともあり、成果目標については、いずれの項目も前年度実績を下回り、達成することができなかった。 ・一方、内科系救急における24時間365日の受入体制を維持するとともに、へき地医療拠点病院として巡回診療を行っている。また、幅広い疾患に対応できる診療体制の維持・充実に努め、病病・病診連携を推進するなど、二次救急医療機関・地域の中核病院として求められる役割・機能を担い続けている。 ・病院を取り巻く環境は厳しい面もあるが、そのような中でも役割を果たしつつ安定的な病院運営を行っていくため、引き続き経営改善を進めていくことが必要である。
--------	---

<指定管理者の評価・報告書(令和7年度分)>

指定管理者の名称:公益社団法人地域医療振興協会

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

① 三重県立志摩病院の管理運営事業の実施に関する業務

- ・令和7年度の病院運営は、医師 25 名(常勤医 19 名、初期研修医6名)の診療体制でスタートし、業務の効率化を図りながら、診療機能の維持・充実及び地域医療への貢献に努めた。
- ・入院診療では、2次救急医療機関として救急患者や紹介患者を受入れるとともに、回復期機能である地域包括ケア病棟(3・6病棟、72 床)を継続して運用した。また、令和6年度から開始した心臓カテーテル検査・手術などの取組を継続するとともに、入退院に係る手続き等をワンストップで支援できるよう令和6年度に設置した患者支援センターにおいて、令和7年度から病院全体のベッドコントロールを一元化し、効率的な病床運営に取り組んだ。
- ・外来診療では、地域の人口減少等により患者数は減少傾向にある中、医療機能の役割分担を促進するため病病・病診連携を推進するなど、紹介受診重点医療機関としての役割を果たした。
- ・救急医療では、内科系は 24 時間 365 日の救急患者の受入れを継続するとともに、外科系では体制に応じて、日中(8 時 30 分～17 時)や準夜間(17 時～22 時 30 分)の受入れを実施した。救急受入要請数に占める受入件数の割合は 83.9%であった。また、事前登録した在宅患者の急変時の入院受入れについて、医師会と連携し、在宅医療病診連携救急システムで実施した。
- ・災害拠点病院として、大規模災害を想定した災害対策本部の設置、情報伝達、負傷者受入などの実働訓練を実施した。また、災害備蓄用品の点検・追加購入や消防訓練も実施した。
- ・地域医療支援病院として、一次医療を担う地域医療機関との患者の紹介・逆紹介を推進するとともに、入院加療や専門外来の診療、救急患者の受入れ、医療機器の共同利用、地域の医療関係職員の研修などを行った。
- ・健診事業では、継続して地域の事業者等から積極的に健診を受託した。
- ・医療安全管理室を設置して、事故の未然防止対策とインシデント(ヒヤリハット)分析、研修会の実施などの対策に努めた。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・建物(一般病棟、管理・検査棟、精神病棟)は、築後 35 年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進み、経年劣化による損傷や腐食等も多く発生し、維持管理や修繕に係る経費が増大している。令和7年度は、病院事業庁が精神病棟空調設備改修工事等の大規模な改修工事等を行い、病院側は日常的に小規模の修繕等を実施した。
- ・医療機器については、耐用年数を超えているものも多く、適切な修繕により長寿命化に努めた。
- ・診療材料や医療消耗品については、定期的にSPD(物品物流管理)委員会において使用状況を把握しながら定数管理するとともに、薬品については、後発薬品への切替えを積極的に行うなど経費削減に努めた。また、協会本部と情報を共有し、経費削減に向け各種点検を行った。

③ 施策への配慮に関する業務

- ・へき地医療拠点病院として、志摩市間崎島への巡回診療を月2回(内科系・外科系)実施し、島民に受診機会を提供した。また、へき地医療支援機構(事務局)として代診医師の派遣調整業務を行った。
- ・新興感染症の発生・まん延に備えて、県と締結した医療措置協定等に基づき、必要な病床を確保できる体制を維持した。
- ・オンライン資格認証システムを活用し、マイナンバーカードを健康保険証として利用できる環境を整えている。また、電子処方箋のシステムを整備し、令和7年12月に準備の整った精神科から運用を開始した。
- ・女性が働きやすい医療機関として、引き続き女性の就労環境等の改善に努めた。
- ・省エネルギー対策(電灯のLED化等)に取り組んだ。
- ・思いやり駐車区画を正面玄関付近と立体駐車場に設け、適正な利用について啓発を実施した。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・関係法令に基づいて各種規程を整備するとともに、個人情報管理責任者を配置して、医療情報等の適切な管理を行った。

⑤ その他の業務

- ・地域の医師会、介護・福祉施設、関係団体等と顔の見える関係を築くとともに、地域の中核病院として、地域住民や医療関係機関を対象に各種研修会等を実施した。
- ・サイバーセキュリティ確保のために、サイバー攻撃対応の事業継続計画（BCP）の策定を行うとともに、全職員を対象に年1回の研修及び訓練を実施した。
- ・院内 Free Wi-Fi の環境整備・提供を行い、患者や来院者のサービス向上に努めた。

(2) 施設の利用状況

	R6	R7
1日平均入院患者数	172.4 人	161.9 人
1日平均外来患者数	243.5 人	243.0 人
1か月平均救急患者数	332.2 人	318.1 人

2 利用料金の収入の実績

	R6	R7
入院収益	2,284,282 千円	2,215,228 千円
外来収益	798,964 千円	758,177 千円
その他医業収益	93,862 千円	89,918 千円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R6	R7		R6	R7
指定管理料	604,963,000	626,478,000	事業費	4,134,958,362	4,152,754,873
利用料金収入	3,177,107,648	3,063,322,676	管理費	63,804,000	61,522,000
その他の収入	90,258,290	191,698,066	その他の支出	8,773,519	12,691,977
合計 (a)	3,872,328,938	3,881,498,742	合計 (b)	4,207,535,881	4,226,968,850
収支差額 (a) - (b)	△335,206,943	△345,470,108			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	1日平均入院患者数	208 人／日	
	1日平均外来患者数	309 人／日	
	1か月平均救急患者数	503 人／月	
	経常収支比率	98.7 %	
	患者満足度	95.0 %	
成果目標に対する実績	1日平均入院患者数	161.9 人／日	(R6実績:172.4人／日)
	1日平均外来患者数	243.0 人／日	(R6実績:243.5人／日)
	1か月平均救急患者数	318.1 人／月	(R6実績:332.2人／月)
	経常収支比率	91.8 %	(R6実績:92.0%)
	患者満足度	94.7 %	(R6実績:96.5%)
今後の取組方針	・志摩地域の中核病院として、当院が保有する医療資源を最大限に活用しながら地域住民への安全かつ良質な医療サービスの提供に引き続き努めていく。 ・医師確保については、引き続き、指導医、専門医の確保に努めるとともに、総合診療科医による幅広い疾患の受入れや専門医との連携により医療の充実を図っていく。内科系の救急患者の受入れについては、24時間365日の受入体制を今後も継続していく。 ・収支の改善に向けては、病院を取り巻く環境の変化を分析しながら、関係機関等と連携し積極的に患者を受け入れるとともに、診療報酬の改定に的確に対応し、診療の幅を拡げるなど収入の確保を図っていく。		

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R6	R7	
1 管理業務の実施状況	B	B	・他の医療機関との連携強化等により積極的に紹介患者を受け入れ、安全・安心な医療を地域に提供した。また、入院患者の在宅や介護施設への復帰に向けた医療を行う地域包括ケア病床 72 床を継続的に運用し、長期間入院加療できる病床として地域住民の医療ニーズに応えた。 ・救急医療においては、内科系において 24 時間 365 日の受入れ体制を維持するとともに、外科系においては体制に応じて受入れを行った。なお、脳疾患や心臓疾患等の重症患者については、ドクターヘリと連携し高次機能病院へ搬送するなど救急医療ネットワークでの適切な対応を行った。 ・地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、感染症への対応、災害医療等地域住民に安心して効率的な医療サービスを提供した。 ・老朽化している施設・設備の整備・改修、高額な医療機器の購入については、県と連携を密にし、計画的に進めた。
2 施設の利用状況	B	B	・入院診療では、一般病床、地域包括ケア病床及び精神病床を運用することにより、救急搬送患者や地域の医療機関からの紹介患者の受入れ等、地域の医療ニーズに的確に対応し、延べ 59,095 人の患者を受け入れた。 ・外来診療では、地域の人口減少等により患者数は減少傾向にある中、延べ 58,808 人の患者を受け入れた。
3 成果目標及びその実績	C	C	・1日平均入院患者数、1日平均外来患者数及び1か月平均救急患者数については、地域の人口減少等の影響で前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。 ・患者数の減少等に伴い、経常収支比率についても前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。収入面では、患者支援センターによる効率的な病床運営の取組等により、入院1日診療単価は前年度よりも上昇したものの、地域の人口減少等により患者数が減少したため、入院収益及び外来収益ともに減少し、事業収益は減少した。費用面では、人件費や物価の高騰等により委託費や設備関係費等が増加し、事業費用は増加した。その結果、経常損益は 345,470 千円の赤字となり、前年度から 10,263 千円悪化した。 ・患者満足度については、ほぼ目標どおりとすることができた。

※評価の項目「1」の評価： 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 業務計画を順調に実施している。

「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。

「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」、「3」の評価： 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 当初の目標を達成している。

「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。

「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	・業務の効率化を図りながら診療機能の維持・充実を図り、志摩地域の中核的な医療機関として、地域医療への貢献に努めることができた。 ・成果目標については、患者支援センターによる効率的な病床運営の取組等により、入院1日診療単価は前年度よりも上昇したものの、地域の人口減少等により患者数が減少傾向にある一方で、人件費や物価の高騰等により費用が増加したため、経常収支比率は前年度より悪化し、達成することができなかった。 ・築後 35 年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進み、維持管理や修繕に係る経費が増大していることから、今後も県に情報提供を行いつつ、対応を要請していく必要がある。
--------	---

(参考) 指定管理者による志摩病院の運営状況

《① 診療科別医師数の推移》

① 診療科別医師数の推移》

(10年間)

県直営

第1期指定管理

第2期指定管理

(単位：人)

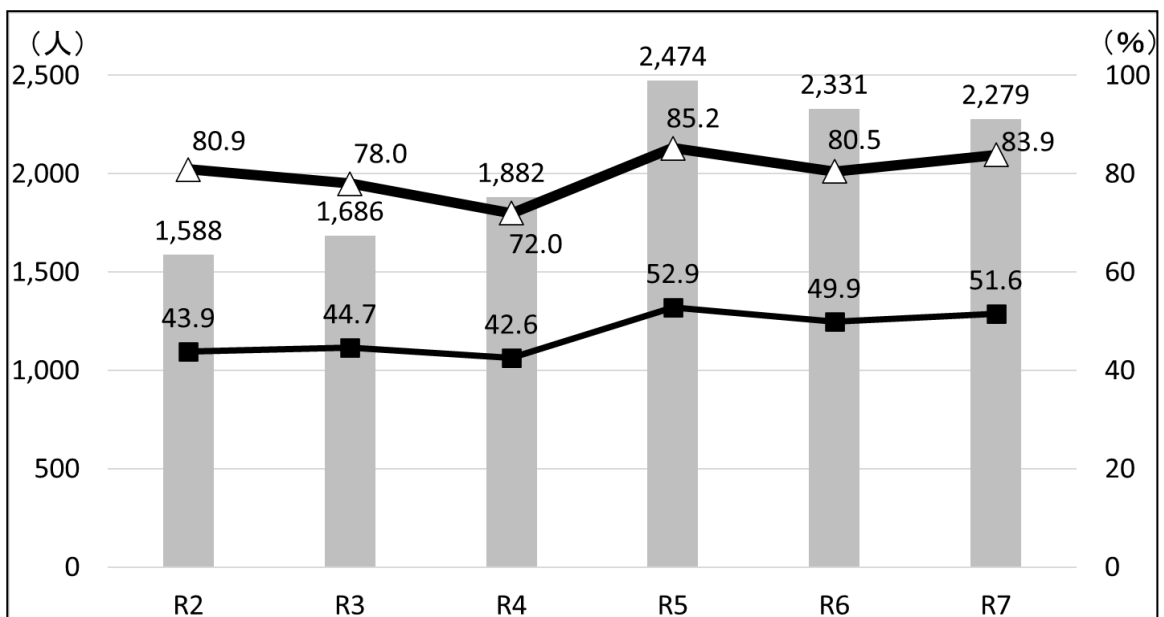
診療科等	H24. 3	H24. 4	R3. 4	R4. 4	R5. 4	R6. 4	R7. 4	R8. 4
内科および救急・総合診療科	5	7	11	10	10	8	8	7
外科	3	4	4	5	5	3	2	3
整形外科	3	2	2	2	3	2	2	2
脳神経外科	1	1	0	0	0	0	0	0
眼科	1	1	1	1	1	1	1	※ 0
産婦人科	0	0	0	0	1	1	1	1
小児科	0	0	1	1	0	0	0	0
皮膚科	0	0	1	1	0	0	0	0
漢方内科・漢方皮膚科	-	-	-	-	1	1	1	※ 0
泌尿器科	1	1	1	1	1	1	1	1
精神科	3	3	2	2	2	2	2	2
放射線科	1	1	1	1	1	1	1	1
緩和ケア	2	2	0	0	0	0	0	0
小計	20	22	24	24	25	20	19	17
初期研修医	1	2	6	6	7	6	6	5
合計	21	24	30	30	32	26	25	22

※令和7年度まで在籍していた常勤医師が令和8年度から非常勤医師雇用となったことによる減
(医療提供体制に影響はない)

《② 患者数の推移》

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
入院患者数	63,041	61,291	60,648	61,938	62,923	59,095
外来患者数	61,819	61,655	62,800	60,169	59,173	58,808

《③ 志摩市消防本部からの搬送者数及び全体に占める割合》



棒グラフ：搬送者数

折れ線グラフ■：全体の搬送者数に占める志摩病院への搬送割合

折れ線グラフ△：志摩病院への救急受入要請数に占める受入件数の割合

《④ 指定管理者会計の決算の推移》

(単位：百万円)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
①事業収益	2,932	3,092	3,153	3,146	3,190	3,076
医業収益	2,847	2,997	3,058	3,049	3,083	2,973
入院診療収益	2,052	2,185	2,221	2,227	2,284	2,215
外来診療収益	795	812	837	822	799	758
その他事業収益	85	95	95	97	107	103
②事業外収益(交付金・補助金等)	1,835	2,347	2,016	858	682	805
収益計(①+②)	4,767	5,438	5,169	4,004	3,872	3,881
③事業費用	4,072	4,467	4,555	4,343	4,199	4,214
④事業外費用	7	7	6	6	9	13
費用計(③+④)	4,079	4,475	4,561	4,349	4,208	4,227
経常収支	687	964	608	▲345	▲335	▲345

※ 四捨五入のため、合計や差引が合わない場合があります。

《⑤ 県からの交付金の交付状況》

(単位：百万円)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
政策的医療交付金 (指定管理料)	581	594	590	620	605	626
政策的医療交付金 (追加交付)	—	—	—	92	78	(※)
特例措置交付金 (看護師等への現給保障)	0	0	—	—	—	—
経営基盤強化交付金 (赤字補てん)	0	0	—	—	—	—
地域医療確保交付金 (特定診療科への赤字補てん)	—	—	0	231	243	(※)

※ R7の交付金の額については、指定管理者と協議中です。